

4

両  
生  
類

*Red Data Book of Wakayama Prefecture*

## 両生類の概要

玉井 済夫

和歌山県には7科18種の両生類（在来種）が生息している。サンショウウオ類のオオサンショウウオは、かつては伊都郡高野町大滝に生息（自然分布）していた記録（大上, 1955）があるが、豪雨による山崩れと水害（1953年）により、生息地が破壊された。現在は、兵庫県生野から平井川（古座川支流）に移入された（1958年）オオサンショウウオが生息・繁殖しているが、和歌山県におけるオオサンショウウオは絶滅の扱いとした。

この10年において、国内のサンショウウオ類の系等分類学的研究が大きく進んだ結果、一部の種名（和名）が変更された。オオダイガハラサンショウウオは、かつては、本州・四国・九州に産するとされていたが、5種に細分され（2014年）、紀伊半島産のものは元の和名のままで、紀伊半島固有種となった。

また、カスミサンショウウオも、かつては、西日本に広く分布するとされていたが、9種に区分され、和歌山県のものにはセトウチサンショウウオという和名に変わった（2019年）。なお、奈良県のカスミサンショウウオはヤマトサンショウウオという和名に変わったが、これは和歌山県にも生息する可能性があり、今後の調査課題となっている。

これまでコガタブチサンショウウオとされていた種も分類が見直され、紀伊半島産のものはマホロバサンショウウオという和名に変わった（2019年）。さらに、ハコネサンショウウオも、分類学的研究の結果、紀伊半島にはハコネサンショウウオとホムロハコネサンショウウオとが生息することになった。しかし、和歌山県における生息状況の詳細については、今後の課題となっている（2022年）。

これらのサンショウウオのカテゴリーについては、これまでのカテゴリーを引き継いだものもあるが、生息環境の変化や個体数の減少傾向等から変更した種もある。カエル類については、生息環境の変化や個体数の減少傾向等があるが、カテゴリーはそのままにした。この10年の調査では、ハコネサンショウウオの生息の確認がなく、また、アズマヒキガエルについても、なおその生息が確認されなかったため、情報不足としている。

### （参考文献）

- 1 Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y. & Tominaga, A. 2019. Systematics of the Widely Distributed Japanese Clouded Salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia : Caudata : Hynobiidae), and Its Closest Relatives. *Current Herpetology*, 38 (1) : 32-90.
- 2 Nishikawa, K. & Matsui, M. 2014. Three new species of The salamander genus *Hynobius* (Amphibia, Urodela, Hynobiidae) from Kyushu, Japan. *Zootaxa*, 3852 (2) : 203-226.
- 3 大上常太郎. 1955. 趣味の紀州生物～その三 オオサンショウウオ～. 28-29. 月刊紀州社, 和歌山.
- 4 玉井済夫・後藤 伸・池田博美. 1976. 平井川のオオサンショウウオの生息状況及び生息環境. 和歌山県自然環境保全地幾候補地調査報告書 平井川. 17pp. 和歌山.
- 5 Yoshikawa, N. & Matsui, M. 2022. A New Salamander of The genus *Onychodactylus* from Central Honshu, Japan (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). *Current Herpetology*, 41 (1), 82-100.

●絶滅 (EX)

オオサンショウウオ

●絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)

オオダイガハラサンショウウオ  
ニホンアカガエル

●絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

セトウチサンショウウオ

●準絶滅危惧 (NT)

マホロバサンショウウオ  
ニホンイモリ (アカハライモリ)  
ニホンヒキガエル  
ナガレヒキガエル  
ヤマアカガエル  
ツチガエル  
トノサマガエル  
モリアオガエル  
カジカガエル

●情報不足 (DD)

ハコネサンショウウオ  
アズマヒキガエル

オオサンショウウオ <i>Andrias japonicus</i> (Temminck, 1836)		サンショウウオ目		オオサンショウウオ科	
県カテゴリー	絶滅 (EX)	旧県	2012	絶滅 (EX)	国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定理由

中国地方を中心に生息している日本の固有種で、国の特別天然記念物に指定されている。和歌山県では、かつて伊都郡高野町大滝で生息し、産卵していたが、1953年の豪雨による水害のため、この谷川が埋没し、生息は見られなくなった、という記録がある（大上常太郎，1955）。

その後も、和歌山県内各地でオオサンショウウオの発見記録があるが、いずれも1個体のみでの発見であり、自然分布とは認めがたい。現在、古座川町の平井川で生息・産卵しているが、これは、1958年に兵庫県生野地方から複数個体を持ち帰ったものが、その後、平井川で生息・産卵するようになったことに由来する。こうした人為的な移入のないよう、今後は十分に注意すべきである。



執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 環境庁自然保護局野生生物課. 1991. 日本の絶滅の恐れのある野生生物 爬虫類・両生類. 331pp. 財団法人 日本野生生物研究センター, 東京.
  - 2 環境庁自然保護局野生生物課. 2000. 改訂・日本の絶滅の恐れのある野生生物 爬虫類・両生類. 120pp. 財団法人 自然環境研究センター, 東京.
  - 3 中村健児・上野俊一. 1963. 原色日本両生爬虫類図鑑. 214pp. 保育社, 大阪.
  - 4 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県. 37pp. 財団法人日本自然保護協会, 東京.
  - 5 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
  - 6 大上常太郎. 1955. 趣味の紀州生物～その三 オオサンショウウオ～. 28-29. 月刊紀州社, 和歌山.
  - 7 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類総説. 520pp. 日本出版社, 東京.
  - 8 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
  - 9 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
  - 10 玉井済夫. 1985. 和歌山県の両生類. 和歌山県立熊野高等学校紀要, 10: 88-96.
  - 11 玉井済夫・後藤 伸・池田博美. 1976. 平井川のオオサンショウウオの生息状況及び生息環境についての調査. 和歌山県自然環境保全地域候補地調査報告書 平井川. 17pp. 和歌山.
  - 12 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
  - 13 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然 -和歌山県レッドデータブック- 【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.
- 写真：玉井済夫撮影（古座川町平井川；国内外来種）

オオダイガハラサンショウウオ <i>Hynobius boulengeri</i> (Thompson, 1912)		サンショウウオ目		サンショウウオ科	
県カテゴリー	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅰ類 (CR + EN)	国 絶滅危惧Ⅱ類 (VU)

## 選定理由

1911年（明治44年）に、トンプソン（米国）が奈良県大台ヶ原山で発見し、この種名となった。その後、紀伊半島だけでなく、四国、九州にも生息することが分かった。しかし、近年の研究（Nishikawa & Matsui, 2014）により、本種は5種に区分されたが、紀伊半島産のものは元の種名のままとされた。紀伊半島（三重県・奈良県・和歌山県）の固有種として、学術的にも価値のある種である。

成体は18 cmになり、全身が濃紺色で、自然林内の林床で生活し、1月～3月に源流域で産卵する。幼生は茶色でまだら模様があり、1年余りの間、水中生活をする。そのため、



源流域の水流が涸れないことが重要であり、その水流を維持するのが自然林である。

和歌山県内では、橋本市・有田川町・田辺市・古座川町・新宮市・那智勝浦町等の山間部で生息している。

選定理由

和歌山県では、2018年に県指定天然記念物（種指定）となり、今後の種の保全にも力を入れている。近年は、飼育や販売目的での採集があるようだが、貴重種として大事にしたい。

執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 御勢久右衛門. 1974. 吉野熊野国立公園地域の水生生物の概要. 吉野熊野国立公園学術調査報告. 86pp. 財団法人 日本自然保護協会関西支部, 大阪.
- 2 Nishikawa, K. & Matsui, M. 2014. Three new species of the salamander genus *Hynobius* (Amphibia, Urodela, Hynobiidae) from Kyushu, Japan. *Zootaxa*, 3852 (2) : 203-226.
- 3 Nishikawa, K., Matsui, M., Tanabe, S. & Sato, S. 2007. Morphological and allozymic variation in *Hynobius boulengeri* and *H. stejnegeri* (Amphibia : Urodela : Hynobiidae). *Zoological Science*, 24 (7) : 752-766.
- 4 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県. 37pp. 財団法人日本自然保護協会, 東京.
- 5 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 6 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類総説. 520pp. 日本出版社, 東京.
- 7 関 慎太郎・井上大輔（企画・編集）. 2019. 特盛山椒魚本. 206pp. NPO 法人 北九州・魚部（ぎょぶる編集部）, 福岡.
- 8 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. *南紀生物*, 62 (2) 別冊 : 22-34.
- 9 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～. *和歌山県高等学校理科研究会会誌*, 35 : 7-18.
- 10 玉井済夫. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集, 95-99pp. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 11 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002 : 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 12 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

ニホンアカガエル *Rana japonica* Boulenger, 1879 カエル目 アカガエル科

県カテゴリ	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	—
-------	--------------------	----	------	--------------------	---	---

地形のなだらかな農耕地を中心に生息するアカガエルで、和歌山県では、紀北地方での生息はあるが、紀南地方での生息が見られなくなった。生息環境は、森林周辺に池・水田・湿地があることが必要である。本種の減少は、水田の減少とも関係があるように思われる。

選定理由

ニホンアカガエルは地形のなだらかな平地に棲み、ヤマアカガエルは平地から山間部まで生息している。

場所によっては、両種が混在する場合もあるが、この両種の生息環境の違いは今後の課題である。

執筆者（玉井済夫）



参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. *南紀生物*, 62 (2) 別冊 : 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～. *和歌山県高等学校理科研究会会誌*, 35 : 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002 : 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影



セトウチサンショウウオ *Hynobius setouchi* Matsui, Okawa, Tanabe & Misawa, 2019 サンショウウオ目 サンショウウオ科

県カテゴリー	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	旧県	2012	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	-------------	----	------	-------------	---	-------------

## 選定理由

西日本に広く分布するとされていたカスミサンショウウオは近年の研究により細分化され、近畿地方西部・中国地方東部・四国東部の種はセトウチサンショウウオとして新種記載された (Matsui *et al.*, 2019)。

和歌山県内では紀北から紀南 (白浜町) まで、主に海岸に沿う平地から丘陵地に生息している。成体は植生が豊かな林床で生活し、冬季に山裾の水湿地 (止水域) に移動し、産卵する。

冬季に水がたまる水田やため池のような人工的な水域も繁殖地となっている。生息地となる平地・丘陵地の開発や、産卵地となる水域の開発・埋め立てや水田の耕作放棄等、繁殖地の乾燥化が生存の脅威である。近年は、販売目的の業者や愛好家による乱獲も脅威となっている。



執筆者 (弓場武夫)

参考文献  
・情報

- 1 Matsui, M., Okawa, H., Nishikawa, K., Aoki, G., Eto, K., Yoshikawa, N., Tanabe, S., Misawa, Y. & Tominaga, A. 2019. Systematics of the Widely Distributed Japanese Clouded Salamander, *Hynobius nebulosus* (Amphibia : Caudata : Hynobiidae), and Its Closest Relatives. *Current Herpetology*, 38 (1) : 32-90.
  - 2 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境基礎調査動物分布調査報告書 (両生類・は虫類) 和歌山県. 37pp. 財団法人日本自然保護協会, 東京.
  - 3 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
  - 4 関 慎太郎・井上大輔 (企画・編集). 2019. 特盛山椒魚本. 206pp. NPO 法人 北九州・魚部 (ぎょぶる編集部), 福岡.
  - 5 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. *南紀生物*, 62 (2) 別冊 : 22-34.
  - 6 玉井済夫. 1984. カスミサンショウウオの生息環境. 和歌山県立熊野高等学校紀要, 9 : 16-23.
  - 7 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35 : 7-18.
  - 8 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
  - 9 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブックー【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.
- 写真：弓場武夫撮影

マホロバサンショウウオ *Hynobius guttatus* Tominaga, Matsu, Tanabe & Nishikawa, 2019 サンショウウオ目 サンショウウオ科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	絶滅危惧Ⅱ類 (VU)
--------	------------	----	------	------------	---	-------------

## 選定理由

マホロバサンショウウオは、かつてブチサンショウウオとされていたが、一時、コガタブチサンショウウオという種名に変更され、更に、研究の結果、マホロバサンショウウオという種名となった (Tominaga *et al.*, 2019)。岐阜県・三重県・奈良県・大阪府・和歌山県に生息する。

本種の和歌山県内の生息地は広く、海岸に近い森林から山間部にも生息する。成体は発見されることが多いが、産卵は源流域の伏流水中と思われる、その幼生も見ることにはない。この意味で特異な生活史を持つサンショウウオである。



執筆者 (玉井済夫)

参考文献  
・情報

- 1 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境基礎調査報告書(両生類・は虫類)和歌山県. 37pp. 財団法人日本自然保護協会, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑[下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類總説. 520pp. 日本出版社, 東京.
- 4 関 慎太郎・井上大輔(企画・編集). 2019. 特盛山椒魚本. 206pp. NPO法人北九州・魚部(ぎよぶる編集部), 福岡.
- 5 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62(2)別冊:22-34.
- 6 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35:7-18.
- 7 玉井済夫. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. p.95-99. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.
- 8 Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K. & Sato, S. 2003. Occurrence of two types of *Hynobius naevius* in northern Kyushu, Japan (Amphibia: Urodela). Zoological Science, 20(12):1467-1476.
- 9 Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K. & Sato, S. 2005. Genetic differentiations of *Hynobius naevius* (Amphibia, Hynobiidae) as revealed by allozyme analysis. Biochemical Systematics and Ecology, 33:921-937.
- 10 Tominaga, A., Matsui, M., Nishikawa, K., Tanabe, S. & Sato, S. 2005. Morphological discrimination of two genetic groups of a Japanese salamander, *Hynobius naevius* (Amphibia, Caudata). Zoological Science, 22:1229-1244.
- 11 Tominaga, A., Matsui, M., Tanabe, S. & Nishikawa, K. 2019. A revision of *Hynobius stejnegeri*, a lotic breeding salamander from western Japan, with a description of three new species (Amphibia, Caudata, Hynobiidae). Zootaxa, 4651(3):401-433.
- 12 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 13 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然ー和歌山県レッドデータブックー【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真:玉井済夫撮影

ニホンイモリ (アカハライモリ) <i>Cynops pyrrhogaster</i> (Boie, 1826) サンショウウオ目 イモリ科	
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)
旧県	2012
準絶滅危惧 (NT)	国
準絶滅危惧 (NT)	

日本の固有種であり、本州・四国・九州に広く分布し、谷川や河川・湿地・池・水田等、様々な水域に生息している。和歌山県内では全域に分布するが、紀南地方に多く生息する。特に山間部の谷川やその淀みに多く生息している。近年、市街地近郊や水田が広がる農村地域では減少し、山間部に見られることが多くなった。生息地となる水域の開発・埋め立て・水田の乾田化や耕作放棄等、繁殖地の乾燥化が減少の原因と考えられる。



選定理由

交尾は行われず、雌が精包を受け取る形で体内受精する両生類である。卵は、水中の植物の葉や、水に沈んだ小枝や落葉に1個ずつ産み付けられる。本種の生息には、幼体が成長するための森林と、その中に河川や池などがあるという環境が必要である。

執筆者(弓場武夫)

参考文献  
・情報

- 1 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑[下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 2 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類總説. 520pp. 日本出版社, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62(2)別冊:22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35:7-18.
- 5 玉井済夫. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. p.95-99. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.

参考文献  
・情報

- 6 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 7 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：弓場武夫撮影

ニホンヒキガエル *Bufo japonicus* Temminck & Schlegel, 1838 カエル目 ヒキガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	－
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

近畿地方以西に分布する大型のカエルで、早春に浅い止水域で非常に長い卵塊を産む。かつては田園地帯に普通にいたが、近年は激減した。現在、和歌山県内各地にいるが、紀南地方の方が多い。しかし、過去に比べると個体数は少なくなった。主な生息環境は田園地帯であるが、近年は農薬使用や水田の減少等による影響で減少したと思われる。



ヒキガエル科の系統関係や、国内のヒキガエル科の分布を知る上で重要な存在である。

執筆者 (玉井済夫)

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

ナガレヒキガエル *Bufo torrenticola* Matsui, 1976 カエル目 ヒキガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	－
--------	------------	----	------	------------	---	---

選定理由

日本の中部以西に分布する。ニホンヒキガエルは主として田園地帯に棲み、止水域に産卵するが、ナガレヒキガエルは山間の溪流及びその周辺の森林に棲み、流水中に産卵する。



幼生の口器は幅広く、流水中では吸盤の役割を持ち、岩に吸い付くようにしている。

和歌山県では、紀南の山間部の溪流及びその周辺に生息地が多い。自然林に囲まれた溪流と流域の森林が生息環境であり、森林の伐採や林道工事等で、河川が荒廃すると、本種の生息環境がなくなる。流水中で産卵するヒキガエルとして特異な種である。

執筆者 (玉井済夫)

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 3 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 4 玉井済夫. 2002. 大杉谷・黒蔵谷の両生類・爬虫類. 大塔山系大杉大小屋国有林・黒蔵谷国有林自然環境調査報告集. p. 95-99. 和歌山県自然環境研究会, 田辺.



参考文献  
・情報

- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

ヤマアカガエル *Rana ornativentris* Werner, 1903 カエル目 アカガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	
						—

選定理由

本州・四国・九州に分布するが、和歌山県の紀北では少なくなっている。山間地域の湿地や水田域を中心に生息するが、紀南では、海岸近くから山間部まで広く生息している。しかし、近年は各種の自然改変や農耕地（水田域）の変化等で、生息環境や産卵する環境（止水域）もなくなった。ニホンアカガエルと同じように、冬季に産卵する。



ニホンアカガエルは平地～丘陵地に棲むが、ヤマアカガエルは山間部に棲む。この両種の生息環境の違いをさらに詳しく調べるのが課題である。  
執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

ツチガエル *Glandirana rugosa* (Temminck & Schlegel, 1838) カエル目 アカガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	
						—

選定理由

本州・四国・九州に分布するが、和歌山県の紀北では少なくなっている。古くから水田、湿地等にごく普通にいたカエルである。



形態や色彩はヌマガエルとよく似ている。ヌマガエルは水田の広い場所に多くいるが、ツチガエルは、水田域の日当たりを避けているのか、そばの溝等にいるのが目につく。むしろヌマガエルの方が多くなり、ツチガエルは少なくなった。水田など農耕地の環境や湿地が必要で、その場所が産卵地でもある。

執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.

参考文献  
・情報

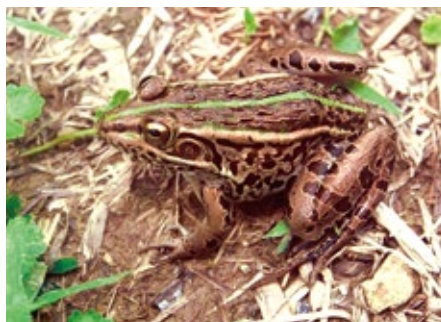
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

トノサマガエル <i>Pelophylax nigromaculatus</i> (Hallowell, 1861) カエル目 アカガエル科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	準絶滅危惧 (NT)

選定理由

かつては水田の代表的なカエルで、どこの水田にも非常に多くの個体があった。人々にも親しまれ、学校の教材や実験動物としてもよく利用された。

近年は、農薬の使用、農耕地の変化（水田の減少等）等の影響によると思われるが、全国的に減少している。場所によっては一時よりは増加した傾向にあるが、それでもなお少ない状況である。森林環境に囲まれた湿地、水田、止水域等の環境が必要である。



執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類 ～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真：玉井済夫撮影

モリアオガエル <i>Zhangixalus arboreus</i> (Okada & Kawano, 1924) カエル目 アオガエル科						
県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—

選定理由

モリアオガエルは本州に生息し、樹上で産卵するという特異な習性があり、古くから人々の関心を集めてきた。通常は森林内や湿地周辺にいるが、繁殖期（6月）になると、雌雄が樹上に登り、水面上に伸びた枝に集まり、1匹のメスの周囲に複数のオスが抱接し、メスは卵とともに泡状の卵塊を産み、オスが精液をかける。樹枝に白い卵塊が付いたまま数週間が経過すると、卵塊の中から幼生（オタマジャクシ）が下の水面に落ち、水中での生活をする。



和歌山県では、高野山の湿地や、寺院の庭の池、人工池等で産卵している。樹枝についた白い卵塊は、人々の興味を引いている。橋本市の山中の湿地でも生息し、産卵している。また、白馬山脈の東谷山（有田川町）の周辺にも生息している。本種の産卵習性は特異なもので、古くから研究課題でもある。

執筆者（玉井済夫）

参考文献  
・情報

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 日本爬虫両棲類学会. 2021. 日本爬虫両生類標準和名リスト (2021年4月22日版). <http://herpetology.jp/wamei/> (2021年7月18日アクセス).
- 3 日本自然保護協会. 1979. 第2回自然環境基礎調査報告書（両生類・は虫類）和歌山県. 37pp. 財団法人日本自然保護協会, 東京.

- 4 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 5 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 6 清水善吉・弓場武夫・鈴木慶太・玉井済夫. 2021. 和歌山県におけるモリアオガエル生息の現況, 南紀生物, 63 (2): 223-224.
- 7 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 8 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 9 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.
- 写真: 鈴木慶太提供

参考文献  
・情報

**カジカガエル** *Buergeria buergeri* (Temminck & Schlegel, 1838) カエル目 アオガエル科

県カテゴリー	準絶滅危惧 (NT)	旧県	2012	準絶滅危惧 (NT)	国	—
--------	------------	----	------	------------	---	---

カジカガエルは、古い時代からその鳴き声が楽しまれたようで、人々にもよく知られている。多くのカエルは、池や水田等の止水で産卵するが、カジカガエルは河川の岸辺に近い流れのゆるやかな場所で産卵する。



**選定理由** 溪流の多い和歌山県では、山間部の上流から中流域に生息するが、紀南の森林環境が豊かな場所では、河口近くまで生息する。

河川流域の森林の伐採、林道工事や河川改修等で、河川環境が荒廃すると、本種の生息環境がなくなる。河川における本種の生息は、環境を知る上での指標ともなる生物である。

執筆者 (玉井済夫)

- 1 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 2 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 3 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 4 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類～現状と課題～. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 5 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 6 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然－和歌山県レッドデータブック－【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.
- 写真: 玉井済夫撮影

参考文献  
・情報

**ハコネサンショウウオ** *Onychodactylus japonicus* (Houttuyn, 1782) サンショウウオ目 サンショウウオ科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	絶滅危惧 I 類 (CR + EN)	国	—
--------	-----------	----	------	--------------------	---	---

本州に広く分布するが、関東地方には多く生息する。春季に谷川の岩の隙間等に産卵し、幼生期間は約 2 年で、成体は体長 19 cm に達する。尾が頭胴長より長く、幼生や繁殖期の成体には指の先端に黒色の鉤爪が見られるのが特徴である。また、日本産のサンショウウオ科のなかでは肺のないことでも知られている。



選定理由

和歌山県内では、田辺市 (大塔山系・果無山脈) や新宮市 (白見山・大雲取山) の一部に生息する。これまでの発見例では、単一個体の成体発見情報と幼生の生息場所が確認されているが、卵塊は発見されていない。



## 選定理由

幼生期間が長く、変態しても肺がない。深い森林内の湿潤な環境や、安定した溪流に強く依存するものと考えられ、自然度の高い森林の指標となる。和歌山県内では生息情報の少ないサンショウウオであり、近年発見例がなく、更なる調査が必要である。

執筆者（弓場武夫）

参考文献  
・情報

- 岡田 要・内田清之助・内田 亨. 1959. 新日本動物図鑑 [下]. 763pp. 北隆館, 東京.
- 佐藤井岐雄. 1943. 日本産有尾類総説. 520pp. 日本出版社, 東京.
- 関 慎太郎・井上大輔 (企画・編集). 2019. 特盛山椒魚本. 206pp. NPO 法人 北九州・魚部 (ぎょぶる編集部), 福岡.
- 清水善吉・玉井済夫・弓場武夫・竹中利明・水野泰邦. 2020. 和歌山県における爬虫類および両生類の記録. 南紀生物, 62 (2) 別冊: 22-34.
- 玉井済夫. 1999. 和歌山県の両生類・爬虫類 ~現状と課題~. 和歌山県高等学校理科研究会会誌, 35: 7-18.
- 玉井済夫. 1994. 紀伊半島におけるハコネサンショウウオの新産地について. 南紀生物, 36 (2): 113.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真: 玉井済夫提供

アズマヒキガエル *Bufo japonicus formosus* Boulenger, 1883 カエル目 ヒキガエル科

県カテゴリー	情報不足 (DD)	旧県	2012	情報不足 (DD)	国	-
--------	-----------	----	------	-----------	---	---

## 選定理由

近畿以東、東日本に広く分布する。生息場所は広く、低地から高山に及び、市街地やその郊外でも見られる。同属のニホンヒキガエルと同様に大型で、肉食性、夜行性である。

繁殖は春、池や湿地等、止水に集まり、ひも状の卵塊を生む。繁殖期以外は水域から離れ、周辺の森林や農耕地等で生活する。従って、生息環境としては、ニホンヒキガエルと同様で、産卵地（あるいは繁殖地）としての水域と田園地帯とが必要である。

和歌山県では新宮市熊野川町（飛地）に生息が確認されているが、近隣地域での詳しい調査が必要である。

和歌山県は、本種の分布域の西端に位置し、ニホンヒキガエルとアズマヒキガエルの分布の境界地と考えられる。ヒキガエル属の分布や種間を知る上で重要な存在である。

近年、生息の確認ができておらず、産卵地等も不明のまま、更に調査の継続が必要である。

執筆者（弓場武夫）

参考文献  
・情報

- 前田憲男・松井正文. 1999. 改訂版・日本カエル図鑑. 223pp. 文一総合出版, 東京.
- 内山りゅう・前田憲男・沼田研児・関 慎太郎. 2002. 決定版・日本の両生爬虫類. 335pp. 平凡社, 東京.
- 和歌山県. 2012. 保全上重要なわかやまの自然-和歌山県レッドデータブック-【2012年改訂版】. 442pp. 和歌山.  
写真: 梅村有美提供 (県外産)